

かわら版 (夏号 NO 11号)

2016/07/01 発行

年 2 回(1・7 月)

下関落語研究会 OB 会発行

大学同窓会のご厚意でバック NO 全てを HP で閲覧できます。地域の各同窓会活動報告とともに是非ご覧ください。

編集局局長 西川 隆喜

徳育と誇りを捨てたこの国に

かすかな望み何にかもとむ (NO 7016)

<直訳>日本人は歴史的にシナ(中国)や朝鮮から伝えられたあらゆる文化や学問を消化し日本独自のものとしてきました。とりわけ公教育においては戦前戦後を通じ知育・徳育・体育の三本柱で推し進められてきました。しかしながら、戦後の民主化はともすると「世のため人のために尽くす」ことが最も人として大切なことであるにもかかわらず、残念ながら親・教員とも軽視してきました。結局のところ何か不幸な出来事があれば何でも国や他人におんぶに抱っこされることを良し、知識や体育分野のみで生きる人たちを特別な人として認める不思議な国になってしまいました。さてさてもはやこの国を救う道は極めて困難な道の選択しかないように思われます。

暑中お見舞い申し上げます

落語研究会 OB・OG 各位・ご家族の皆さま暑中お見舞い申し上げます。今年は年初から政治家・ゲスノ極み乙女(川谷)とベッキー、拳句は「五体不満足」の著者で元教育者の乙武洋匡に及んでは人の道を踏み外し、最後は社会的制裁を受けるに至った。

一方で熊本・大分地震、そして今なお続く余震と大雨の中で苦しみ暮らされている人々のことを考えるとギャップが大きすぎ、人生を道徳的に生きている人たちにとっては誠に悲しくなる出来事です。また、東京オリンピックや舛添東京都知事の問題などを踏まえれば、日本国そのものが人の目には見えないものの、見えざる手により新しい国の形に進む序章が始まっているのかもしれない。最後に下関からさほど遠くない熊本・大分両県には同門の皆さんやそのご家族が数多くお住まいになっておられることと存じます。震災・大雨による災害からの早期の復興を神に念じます。 (編集局)

『結婚35周年記念旅行 さっぽろ雪まつり』



今日は念願の札幌雪祭りの出発の日なのだ。在命中にどうしても行きたい場所、黒部アルペンルートで4月末にしか見られない雪壁の下をバスで走ること、そして、さっぽろ雪まつりへ行くこと。この2つはどうしても死ぬまでに見たかったものです。10年前、富山に就職した息子のところへ行ったとき雪の壁は見ることができました。そして今年、家内と二人でLCCを駆使してさっぽろ雪まつりに行くことができました。


家内は仕事が終わってから成田へ、小生は先に成田へ、待つこと8時間、しかも家内は機材の関係もあり25分遅れで成田へ到着。ギリギリで23:05分発のホテル送迎バスに間に合い、ホテルへ到着。風呂に入ってバタンキューでおやすみなさい。翌日朝5時30分のホテルのバスで第3ターミナルへ送ってもらい、空港で朝食、食べたうどんのまずいこと、薄くて何の味もしないと、家内は作り変えてもらったが、やはり薄い。諦めて、中に入る。滑走路をみると、少しずつ明るくなってきた。遠く山の間には太陽が昇ってきた。すこぶるいい天気だ。先ほど、札幌の天候不良の場合は成田に引き返しますのでご了承のうえ、ご搭乗くださいとアナウンスがあったばかりなのに、東京はなんていい天気なのだ。外も暖かく春のようであった。引き返した時は諦めるしかないかと、思いつつ機上の人となる。雲の上は晴れ渡りまるで、眼下の雲が真っ白な雪のようであり、ひととき幻想的な景色であった。新千歳空港に近づくにつれて雲が厚くなり、ほとんど周りが見えなくなってきた。機体も少しガタガタ揺れだしたし、大丈夫かなと思っていたら、機長のアナウンスで空港の上空の状態が少し良くなってきたので、この

まま着陸することのこと。高度を下げていよいよ着陸という時にまた機体がガタガタ揺れだした、窓の外は猛吹雪で一面真っ白である。おいおいと思っていたら、ドーンと着陸、逆噴射とブレーキでなんとか無事停止。やっぱり飛行機の運ちゃんは凄い。外は一面の銀世界、成田の天気うそのようである。

新千歳空港から J R で札幌駅へ、途中の車窓の景色は雪がふぶいたり止んだりの繰り返しであった。

10時過ぎに札幌駅に到着、まず、ホテルに荷物を預けるため地下鉄で西11丁目まで行き、徒歩でホテルへ。途中、さらさらのパウダースノーを踏みしめながら、なんとか滑らずに到着、ホテルで防寒体制を固め、靴に滑り止めを装着し、雪まつりの会場である大通公園へ向かう。幸い雪は小降りであったが、雪像に雪が少し積もっていてスヌーピーが埋もれていた。今、話題の五郎丸や又吉やミニオンズ、ふなっしーなどたくさんの雪像があり、どれもとても良くできていた。とくに自衛隊の作成した、大きな雪像の**聖ポール天主堂・進撃の巨人**や北海道テレビ放送らの作成の**北海道新幹線**は圧巻で素晴らしかった。やっぱり一生に一度は見るべきところだと感じました。

この日のお昼は予定通り屋台で、焼きホタテや焼きカキ、花咲カニの味噌汁やご当地プリンなどに舌鼓をうち、途中で吹雪いたりもしたが、日本ハムのグッズショップでストーブを囲んで、雪の止むのを待ったり、ある意味で、こちらでは味わえない雪の札幌を満喫できました。そのうえ、夜にはプロジェクションマッピングショーがあり、幻想的な雰囲気の中、感動のひと時でありました。電波塔からの夜景も素晴らしく綺麗で、遥か遠くに続く会場を、光の帯のように眺めることができました。

さて、この日の夕食は海鮮専門店「うおせい」で、毛ガニ一杯や、うにいくら丼、いかの姿焼き、ぼたん海老、 鮭かま焼き・生きホタテバター焼き、さらにイクラ丼と、家内はビール3杯やサワーを飲み大散財、北海道の食材はうまかったーのひとことです。夜のすすきので、光り輝くイルミネーションを見ながらホテルへ大浴場で足を伸ばし、ゆっくりと寝ました。ホテルでニュースを見ると、小生たちが到着した後で天気が荒れて札幌発の便が86便も運休して、翌日も帰れない人がいるという事でした。また、間一髪や、去年も石垣島で帰りの便が強風の中、間一髪で離陸できたという事があり、こういうとこで運を使っているから宝くじが当たらないのやなど、妙に納得しました。

一夜明けて天気は回復。歩いて会場へ。朝早くから積もった雪を払い、綺麗にメンテナンスをやっており、小さな雪像が生まれ変わったようにハッキリと姿を表していました、人も少なくゆっくり写真も撮れて、翌日の朝早くが穴場なんだと、あるかないか分からない次回への参考にしようと思ったのであります。

今日は二条市場に行こうと途中から、ホテルで聞いていたように、地下鉄に乗ってススキノへ向かったのですが偶然、ススキノで氷の祭典も行われているのを見つけ、ずっと写真を撮っていたら、曲がり角を曲がるのを忘れ、遙か遠くまで行ってしまいました。人に尋ね何とか二条市場にたどり着き、友達に毛ガニを送ったり、娘のリクエストの R O I C E のチョコレートを買ったりして自宅に送付。やれやれこれでお土産もバッチリと外に出ると、なんとすぐ近くに電波塔が見えるではないか、なんじゃこりゃ、途中で地下鉄に乗ることもなく、会場を電波塔まできて、すぐのところにも二条市場があったんやと、やっと地理的な感覚が分かったのに明日の朝には帰るとまあ、こんなものですわ。でも迷ったおかげで氷の祭典を見ることができたので結果オーライという事です、これも、旅の醍醐味です。

今日は夜まで時間があるので、赤れんがの旧北海道庁や時計台を見学して、一旦ホテルに戻り一息いれて、夕方再度、会場へ、プロジェクションマッピングを堪能して、今日は少し儉約をして**みそラーメン**を食べようと、**けやき すずきの本店**への道を、たずねたどり着きました。流石に行列の出来る名店、すでに5, 6人の行列があり、待っている間に後ろに長い列ができました。店は10人位が入れるカウンターで先に食券を買い注文を外でして、中に入るとスムーズに食べれるという流れでした。うまい、うまい、まいー、これこそ札幌みそラーメン、前日にも勝るとも劣らない、大満足の夕食でした。

今日も、夜のすずきので、光り輝くイルミネーションを見ながらホテルへ、大浴場で足を伸ばし、ゆっくりと寝ました。

さて、最終日は朝食後、一路空港へ、今日は天気も荒れてないので無事関西空港へ、乗り継ぎの合間に関西空港で大好きなたこ焼きを食べ、嫁はんはお好み焼きにビールで満足げな昼食をとり、福岡空港へ地下鉄で博多駅へ行き新幹線で新下関へ、無事我が家へと帰り着きました。今回も楽しい、大満足な旅行でした。旅行会社で長年仕事をしていたお蔭でコースを企画して、パソコンで格安の飛行機やホテル、レンタカーが手に入ります。在職中には想像すら出来なかった世界が今、目の前に広がっています。癌と分かった時、辛い治療を行っていた入院中のことを思えば、まるで夢のようで

す。全てが生きて元気であるから出来ること。明日のことは分かりません。でも、いま確かに小生は楽しく旅行をしています。前向きに生きる活力を取り戻しています。明日の見えない身の上になって、初めて何の変哲のない毎日が本当に有り難い事だと心より思っています。

※昨年からは飛行機に乗りまわりの生活をしている。最近は奥さんや義理の母親まで巻き込んで沖縄・京都・北海道・・・止まるところがないようだ!! そんなことか彼のセカンドネームはジェット君となった。

沖井 孝志 (S49 卒)

『大阪ミニ同門会』

ジェット君こと沖井さんが大阪にやってきました。

急ぎ編集局長の西川と幸本が駆けつけ、難波の難波のگانこ寿司で「大阪ミニ同門会」を開きました。少数精鋭の豪華な同門会でした!! 全国各地で『ミニ同門会』が開かれることを期待しています。現在は東京で毎年 12 月に定期的開催



左から幸本(S53 卒) 西川(S53 卒) 沖井(S49 卒)

されています。

(編集局)

『写真のご紹介』

準会員の間島健一(S49)さんから博多での OB 会には所用のため参加できない旨の連絡とともに、学生時代より続けられている写真の成果として、受賞された作品を複数点送っていただきました。勝手ながら私の選択で二点だけ皆様に紙面に紹介させていただきます。カレンダーに使われたものもあるようで素人の域を超えておられるようです。写真に興味や関心のある方で詳細に知りたいといったご希望のある方がおられましたらご連絡ください。紹介させていただきます。(編集局)



「第13回四季の那須フォトコンテスト」準グランプリ

「秋真盛り」



「第61回全国展フォトコンテスト」入賞

「それぞれの週末」

『創部 45 周年記念懇親会 IN 福岡(志賀島)』の速報

去る6月25日(土)～6月26日(日)にかけて福岡市志賀島の休暇村「志賀島」で開催されました。前日までの大雨が嘘のようなお天気にも恵まれ、東京3名、大阪1名、岡山1名、下関3名、福岡2名、宮崎1名、合計11名が集合しました。あいにく市内は同時開催されていたライオンズ世界大会があり、福岡空港や博多駅はもちろん中心部の交通渋滞はありましたが定刻の18時30分に予定通り懇親会が始まり大いに盛り上がりました。詳細は次回「かわら版 NO12号(新春)」でお伝えしますので、会員・準会員の皆様におかれましては今しばらくお待ちください!!

(編集局)



前左から筒井・西川・松尾・沖井・尼子・青山各氏
後左から有田・千葉・大塚・濱元・中山各氏

『編集後記』

落研のOB・OG会というのは実に恐ろしい場所である。特に不参加のOBについては凡そあることないこと、ほとんど人でなし・・・といったことが話される。参加しなかったOBの多くはくしゃみが出て仕方がなかったのではなからうか？ただ今回は創設期から少し離れた世代から濱元 龍太郎・中山 和允、両氏(共にS58卒)の参加がありました。この人たちが次のOB・OGの輪を形作って行ってほしい、私を含め心あるOB・OGが支えていかねばならない。地球に生きとし生けるものは植物でも動物でも命をつなぐ一点でその存在価値が認められる。全国各地にある支部も単独クラブのOB・OG会も同じで、5～6年刻みで核になる会員を普段の努力で参加者確保に尽力いただきたいものです。中でも昨今発刊された島根支部広報誌や大分県支部の外部講師による講演会などを注目してゆきたい。(編集長)